

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	こうえい愛宕館	評価実施年月日	2010年2月26日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010年 3月12日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	こうえい会独自の理念があり、その中に「その人らしく生きる」「喜びの実現」とあり、今まで大切にしてきた、社会参加(趣味の活動・町内活動)を継続して行い、喜びや生きがいを感じて頂けるよう支援しています。	町内の方々と交流をより深めていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	勉強会・事業所内研修等で、理念について深く学んでいます。また理念を事業所内に掲示したり、職員が理念を書いたカードを持ち、いつでも見られる様にすることで、理念を共有し、確認しながら、ケアをさせて頂いています。カンファレンス等でも理念を基にしたケアを目指し取り組んでいます。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会や毎月発行の通信・カンファレンスを基に話し合った内容をお伝えする等して、理念をお伝えするようにしています。また運営推進会議時等に町内の方々にお伝えし、理解して頂けるよう努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご近所の方々との挨拶し交流を心掛けています。時には入居者さんと一緒にお花や犬を見せて頂きながら会話させて頂いています。近所の方が、ウエスを持ってきてくれる事もあります。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の花壇の土おこし・花植え・ゴミ拾い等に参加したり、地域で行っている趣味の活動に参加し、事業所外でも社会参加できるよう支援しています。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	施設長が認知症の研修会やホームヘルパーの講師をしています。運営推進会議で地域の方に認知症についてお伝えしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価の内容をいつでも見られる様にし、口頭でも伝え改善点を職員間で話し合い共有しています。昨年の改善点として地域資源の活用が挙げられ公民館での趣味の交流が始まるなど改善点を具体的に見直しています。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>町内会長や地域の方・家族に参加して頂き、グループホームでの活動。ケアの様子等を報告しています。地域の方々に、バリアフリーで安全に散歩できる場所の情報を教えて頂いたり、又地域で行っているサークル活動を教えて頂く等、外出に関する多くの情報を得ることで、社会に出るきっかけ作りにもなっています。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市で行っている講習会に参加したり、手続き等解らない事については市の介護高齢課と連絡を取り、利用者・家族の支援に繋がられるよう関わりを持っています。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今現在、必要な方はいませんが、必要な方がおられる時には、いつでも活用できるよう、資料等で確認し、又 研修会等に参加し、制度の仕組みについて学んでいます。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設長・管理者は、研修等に参加し、勉強会等で内容をスタッフに伝えています。職員は勉強会で虐待防止について学ぶ機会を持っていて、職員間で虐待について考える機会をつくっています。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時・解約時には、時間をとって頂き、ゆっくり細かく内容の説明をさせて頂いています。ご家族の納得を得られるまで、話し合いをしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に利用者さんの不満・意見を言葉だけではなく、様子からも察する事ができるよう心掛けています。不満に思われていると感じた時には、カンファレンス等で話し合い、素早く改善できるよう対応しています。職員間で情報を共有し一致して問題に取り組んでいます。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態・日々の様子については、随時ご家族に報告し、連絡を密にしています。金銭管理は月に1回、使用したおこずかいの報告と、購入したい物があれば相談させて頂き購入するようにしています。また月に1回のたよりには、スタッフに入居者さんの日々の会話等を交えた、記事を書いてもらい、日々の様子を家族に伝えていきます。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームの中で苦情相談の窓口を設けています。またご家族へ市や国保連の苦情相談も紹介しています。またご家族に不満、苦情を率直に言って頂けるようご家族との関係作りにも努めています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会、カンファレンスの時に意見や提案をできるようにしています。また、スタッフの意見、提案は主任会議等で、話し合い反映できるものを検討し、実行しています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	常に、待機の職員を確保しており、利用者さんの受診、外出に対応できるようにしています。また、イブニングケアの充実の為、職員と話し合い、遅番1名を時間をずらし出勤する等入居者さんの状況に応じて、調整をとっています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	出来る限り、顔馴染みの職員から継続してケアを受け、安心して落ち着ける環境を作れるよう配慮しています。やむを得ない場合は、充分利用者さんに配慮しながら行っています。またユニット間の移動があった場合でも、ユニット同士での行き来があり、繋がりが大切になっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所からの支援として、月に1回の勉強会、実践者研修また勤務年数に応じて外部のスタッフ研修の参加を積極的に行っています。また、OFF-JTとして、事業所から研修の案内をし情報を提供しており、自主的に研修会へ参加も促しています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内で行う研修会や、北海道グループホーム協議会の研修会に参加し、お互いの情報交換するなどし、交流をもっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休暇、有給休暇を取れるような体制をつくり、職員がリフレッシュできるようにしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>希望者をつのり、資格取得に向け、学習会・模擬試験・小テストにより学習を勧めたり、お互いに励ましあえるような環境作りをしている。また法人は職員が資格取得を希望した場合の助成金制度を作っており、資金面での援助も行っています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には必ず、本人と面談を行い、本人の思いを聞いて、本人の思いや希望に添えるよう努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から、利用に至るまで、家族との面談、聞きとりを数回行い、充分時間をかけ、情報収集・アセスメントを行っています。ご家族の感じている不安についても、聞きとりを行い、不安なく入居へ至れるよう支援しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	歯科衛生士さんによる口腔管理、口腔ケアや、訪問看護師さんによる点滴等、その方が必要としているものを取り入れています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が好きだった音楽を流したり、今まで使用していた家具・馴染みの物等を居室に置くなど、本人が安心できる雰囲気大切に、以前の生活に近づけ馴染みの環境を作りながらサービス利用へ移行できるよう支援しています。		本人の居室で、その方が好きだった歌手や音楽を流して来て頂いています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員だけが、家事を行うのではなく、入居者さんの出来る事を引き出し家事に参加して頂いています。タオルたたみ・タオル干し・野菜の皮剥き等、日常生活におけるお手伝いをして頂き、達成感や喜びを感じて頂ける様にしております。共に過ごしていく中で例えば漬物の漬け方など、入居者さんから教えて頂く事もあります。その中で信頼関係を築き、その人らしく楽しく過ごして頂いています。		歌が好きな利用者さんには、一緒に歌って頂いたり、わからない歌謡曲があると教えて下さっています。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方が来館された際には、利用者さんや家族の話を聞かせて頂き、昔の様子を聞くことで、一緒に利用者さんを理解し受け入れています。又家族には本人の生活の様子、病状の変化等を細かくお伝えし、家族の思いと傾聴・確認しながら、共に利用者さんを支えていけるようにしています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの家族環境を出来る限り把握し、理解に努めています。関係性が複雑なご家族には、本人の思い等を代弁し、日々の様子等をお伝えさせて頂いています。誕生日会やイベント行事等に、家族を招待させて頂き、交流を深めて頂けるようにしています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の昔ながらの趣味や、思い出深い場所には、公共の場を利用したり、訪ねたりして利用者さんに懐かしさを感じて頂いたり、思い出が引き出せる様に支援しております。		写真を見て頂き、家族の話を聴かせてもらったり詩吟が趣味の方や、お寺に思い入れがある方には、公共の場を利用し、思いを受け入れるようにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者さん同士が会話されている事もありますが、職員が間に入る事で、利用者さん同士の関わりが増やせる様支援しています。風船バレーや、カルタ等、利用者さん同士が孤立せず、共に楽しみながら、過ごして頂ける環境づくりに努めています。		利用者さん同士が職員の声かけがなくても、積極的にお互いが関わりあえる様に支援していきたいと思ひます。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家で収穫した野菜を持って来て下さる方、時には連絡を下さる方もいらっしゃり、契約終了後も家族との交流も大事にしています。		声を掛けて頂けるような環境を作り、いつでも気楽に来館して頂けるような雰囲気を作っています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのように暮らしていきたいかを日々の観察から、時間をかけアセスメントし、その人らしい生き方、暮らしが出来る様に対応しています。また言葉で思いを伝えられない方は、声の強さ・トーン・手の握りかた等で、本人の思いを察しながら、確認できるよう心がけています。またケアに迷った時には、カンファレンス等で、本人の思いを1番に考えるようにしています。		職員同士が情報交換し共有して頂き、カンファレンスしていき個人のアセスメントをしていきたいと思ひます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にゆっくりと時間をかけ、どこで生まれ、どのような仕事をし、どのように生活してきたか等の生活歴を聞き、アセスメントし、ケアを行っています。日々の生活から、昔の話や言動等を引き出し、生きてきた過程を把握し、安心して生活を送って頂ける様にしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々その人の生活のペースに合わせた過ごし方をさせていただいています。出来ない事ではなく、出来る事に重点を置き、出来ることを引き出したり、出来ている事を維持できるよう支援している。また職員間で情報を共有し、職員全体で共通認識を持つて行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の生活の中から本人が何を思い、何を考えて居るのかを知り、家族とも連携し思いを反映し、意見やアイデアを取り入れながらケアプランを、作成しています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>日々の状態から見直すべき点はないか、カンファレンス等でスタッフ全員で話し合い、見直す点については、スタッフとじっくり話し合い、新しいプランを作っています。また、期間終了時には、時間を掛けて本人の困っている事を検討しプランに載せています。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日のケア記録に日々の様子、ケアの実践を記載しています。必要に応じて、センター方式・24時間気分変化シートなどを使用し、一人一人の変化を全員で把握し、ケアの統一が図れる様にしています。また日々の気付きは1分間報告を用いて、記録し検討したり、ケアの工夫等については、ケアカンファレンス・日々申し送り等で話し合い、全員が一致して行えるようにしています。また全員で周知するために、連絡ノートを作り、職員が把握できるようにしている。またケアプランに活かしています。</p>		<p>ミニカンファレンス等の充実をはかり、より入居者さんの状態に早く対応したい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>人・物の移動については車を稼働させ、個別の希望については日勤4人の体制の時に個別対応する等出来る限り、柔軟に対応していきたいと思っています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>公民館で詩吟のサークルに参加される方、図書館よりCD・本など好きな物を借りてこられる方、本人の希望でお寺の参拝に行かれ、お経を上げて来られる方等、生き生きされた表情で楽しんでいます。</p>		<p>趣味の詩吟、サークルに定期的に参加され、とても楽しそうに吟じられています。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>ご家族や本人からサービスの利用の希望があれば、対応していきたいと思います。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>必要に応じて行ってきたいと思います。</p>		<p>地域包括センターで行っている、研修会に参加し、情報交換させていただいています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医はご家族の希望で、決定して頂き、医療連携体制(往診・ラウンド)にて日々の利用者さんの変化に早急に気づき、主治医の指示を仰いで健康管理や日々のケアについてのアドバイスをして頂いたり、必要に応じて医療機関受診を行っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	日々のケアの中で、認知症の症状の変化が見られた時には、ご家族と相談し、専門医の受診を行っています。また主治医の先生に情報をお伝えする為に、日々の変化シートなどを用いて、状態の報告細かく伝え、相談にのって頂いています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回医療連携体制を取っており看護師さんに利用者さんの健康アドバイスなどをうけています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、こまめに面会に向う様になっています。ご家族の了承を頂いた上で、利用者さんの状況を聞いたり、病院に対して生活状況をお伝えしています。看護師さんとの連絡を密にしながら、早期に退院できるよう対応しています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現状、及び今後予測できることを踏まえながら、ご家族とまた、状況によっては医師・家族・グループホームの三者で、早い段階から、話し合いを持つようにしています。また、終末期における生活介護覚書を作成し、状況を確認しながら対応しています。ケアカンファレンス等で職員間で情報を共有しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師・家族・グループホームの三者で話し合いを持ち、病状の説明やホームでできること、医療ができることを踏まえながら、今後の終末期におけるケアの方向性を確認し合いながら、ケアに取り組んでいます。ケアカンファレンス等で職員間での情報を共有しています。またホームで対応できる範囲の医療の多様性についても、医療機関と相談を進めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	以前住んでいた環境に近づくために長年していた習慣や長年使用していた物を置くようにして環境の変化を減らせる様配慮しています。また、グループホームへ移る場合は家族・及び以前関わっていた、介護サービスの担当者等から話を聞き、アセスメントを十分に行いながら、少しでも住み替えのダメージを軽減し、安心して頂ける環境作りを心掛けています。入居後でも、他のサービス担当者から話を聞かせて頂くよう、対応しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	1人1人の尊厳を守り専門職としての倫理を大切にしています。勉強会等で、プライバシー・尊厳に関しての学びを行い、職員一人一人が意識を高めていけるようにしています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	それぞれの方に合わせた、対話の技法を取得し短い文章で伝えることをしています。例えば、思いを言葉で表せない方には、声のトーン・手の握り方等、1人1人、日々の表情の変化を見逃さず、本人の思いを引き出せる様、働きかけを行っています。また服など、日々の生活の中で、自己決定できるよう支援しています。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人の思いを大切にし何を求めているのかを観察し探りながら押しつけのない、その人らしい生活を送って頂いてます。食事は「後から食べたい」と言われる方には、後から提供する等、本人のペースにあわせたケアを行うように努めています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	スカートやエプロン・ウィッグ等、以前から大切にしていた服装・髪型・お洒落は可能な限りして頂いてます。お店に行けなくても訪問の美容師さんに来て頂き髪を染めて頂いてます。また馴染みの床屋さんに通われている方もいます。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	皮むき・野菜切り・米研ぎ・配膳・茶碗拭き・お盆洗い・味見などに参加して頂いてます。自分で皮を剥いた野菜が晩御飯の材料になると伝えると、とても喜んで下さっています。目の前で食材が焼けるのを見て頂けるよう、外で焼肉を行ったこともあり、出来上がる喜びを一緒に感じたりしています。食事が食べられない方には個別に別メニューを用意し好きな物を食べて頂いてます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは1人1人お好みの物を用意しています。(チョコレート、プリン、バナナなど)食事が摂れなくなってきている方にも少しでも食べて頂けるように好きな食べ物をお出ししています。晩酌の習慣がある方には、焼酎の提供もしています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の言葉、表情、行動、まなざし、身体の動き、身振り、手振りなどを手掛けにして排泄を支援しています。排泄チェック表・排便表等を用いて、一人一人の排泄パターンを職員間で共有し、早めに声掛け対応しています。立位保持が難しい方も、日中はオムツを外せる様、職員2人で介助し安全に排泄して頂けるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日以外でも、本人の要望、体調に合わせて入浴できるように対応しています。入浴拒否される方で、トイレの後入浴誘導すると、スムーズに入浴される方などそれぞれ違うので、タイミングに合わせて気持ち良く入って頂いています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝までの間、リビングでテレビを観たり、長椅子で横になったり、居室でテレビを観ながら寝たり、と自由なスタイルで過ごして頂いております。本人のペース・習慣を尊重しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	タオルたたみ、洗たく干し、厨房での茶碗ふき、野菜の皮むきをお手伝いいただき、役に立っている喜びや達成感を感じていただいております。玄関掃除、雪はねもしていただいております。また、天候の良い日は職員と散歩に出かけたり、買い物や外食にも出かけております。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持、使用の大切さを十分に理解している。買い物の際に使用できる様に支援する体制はあるが、入居者さんの重度化に伴い買い物、外出が困難になってきた1年でした。利用者さんの中には、家族の同意のもと財布に現金を所持している方もおり、持つことにより安心感を得ていただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候を見計らい、スーパーや散歩がてら他のユニットへ出かけたりしております。利用者さんが外に行きたい時には、職員も同行し一緒に散歩へ行っています。時には、本人が職員の目を気にせず散歩して頂けるよう、後ろから見守りを行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	1人1人の状況や身体状況に合わせた、個別の外出を行っています。馴染みのお寺や、思い出深い場所、以前住んでいた家など本人の希望に沿って外出しています。外出には、ご家族もお誘いし、来て頂いたりしています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族、親類からお花や荷物が届けられた時には、本人に電話に出てください会話をしていただいております。手紙が来た時には、本人に直接お渡ししています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人の方が訪問された際は、リビングや居室など希望される場所で過ごしていただいております。他のユニットの利用者さんが訪問されることもございます。訪問くださった方には、お茶やお菓子をお出しし、おもてなしの支援をしています。お帰りの際は利用者さんと一緒にお見送りしております。また、会話が出来ない利用者さんのご家族の為に、行事等があった際は写真を撮り壁に飾り、その時の様子を見て頂いております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止規定や、当法人で設けている身体拘束廃止委員会規程をマニュアルにファイリングし、常に職員が閲覧出来る様設置しております。勉強会においても取り上げられ確認合っております。現状のケアにおいて身体拘束はしておりません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者さんの居室には昼夜問わず施錠はしておりません。玄関は原則施錠はせず出入りを自由にしてありますが、利用者さんの中に施設敷地外の車道付近まで出て行かれる方がおります。この地域は非常に交通量が多く、交通事故の多発地域であり、入居者の生命安全の為、食事介助中等、職員の目の届かない時間帯のみ止むなく玄関の施錠をすることがあります。施錠の際は記録を取り、又ご家族の方には事前に説明をし了解を頂いております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者さんを尊重し、見守り声掛け等、さりげなく対応すると共に、職員同士連携を取り、居場所を確認し合っております。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や薬品は、夜間帯は施錠出来る事務所の所定の場所に保管管理しております。異食行動される方には、洗面所の石鹸を液体の物に変更し、ティッシュ箱の配置も必要最小限に管理し見守りしております。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月一度勉強会を設けており、また外部研修を受講しながら知識習得に努めております。定期的な火災時の避難訓練を消防署と連携を取り実施しております。利用者さんの食事状況を観察し、食物の柔らかさ大きさを個々に対応し支援しております。転倒防止については、怪我には至らないヒヤリハット事例もカンファレンス等で、スタッフ一同検討し、再発防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会において実技、演習を行ったり、消防救急隊による救命講習を受講し修了証を取得しております。緊急時に備え、病院搬送時の対応や持参する必要書類を直ぐに確認できる場所、持ち出せる場所に設置しております。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	事業所内、避難訓練は年2回行い、実際にシートに包んでの、搬送などの訓練を行っています。また勉強会で、地域の避難場所を職員に周知しています。運営推進会議時にも、地域の方々へ災害についてのテーマで話し合いを持ち、理解して頂いています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	予想されるリスクについて、スタッフ全員で話し合いを持ち、情報を共有し、そのリスクをいかに減らせるかを、日々検討しています。ご家族には、その都度、リスクについて細かく説明させて頂き、その中で、その人らしい暮らしの継続ができるよう話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の観察から、いつもと違う様子が見られた時には、早急に医療と連携をとり、連絡・相談・受診しています。状態の報告については、申し送りや連絡ノートで職員間で情報を共有し、全員で観察し、異変に早く気付けるよう努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示により、薬の変更があった時には、薬の種類、一日の量、また薬と飲み合わせの悪い食材等の情報を、申し送りや連絡ノートを利用し、全員に周知している。薬の副作用については、いつも目に届く所にファイリングし、いつでも確認できる様にしています。また下剤等の調整は、職員全員が把握できるよう、排泄表に量を記入する様になっています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	勉強会で、便秘についての学びを行っている。排泄チェック表を用いて、排便状態を確認しています。又便秘の状態によっては、水分を促したり、ヨーグルトや食物繊維の多いものを摂って頂き、食事からも改善できる様、支援しています。義歯などの口腔の状態によっては、食事形態の工夫も行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは食後に毎日行っています。利用者さんの状態に応じて、口がゆすげない方には煎茶を用いて、口の中を流して頂いたり、洗浄スポンジを使用して、口腔ケアをおこなっています。また口腔の状態確認も行っています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の食べられる量に応じて、食事の盛り付けを行っています。食事量や栄養の偏りがある方には、別メニューや補食として高カロリー飲料などを提供し、栄養を補って頂いています。水分が不足している方には、ゼリーを提供したり、本人の持ちやすい器や、量を少なくするなど、工夫し水分が摂取できるよう支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について知識・予防・対応について勉強会し、マニュアル化されている。感染症発生時にすぐに対応できるよう、対応セットを用意しており、その中に、マスク・予防衣・消毒液等、すべての物をセットし、いつでも対応できるよう用意しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の調理時にも肉や野菜を切る際にはまな板を分ける等して対応し、食材の賞味期限に配慮しています。毎日台所の掃除は塩素で拭く等し、また一日の終わりには台所内掃除、まな板などを消毒をしています。調理器具についても定期的に消毒を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にベンチを置いたり季節の花を置いたり植えたり等して家庭的な雰囲気を中心掛、自由に寛げるようにしています。近所の方々も馴染みの関係になり利用者さんがいると、立ち止まり犬を見せて下さったり話をして下さいます。畑には、トマト等の野菜を植え、自由に収穫して頂けるようにしています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には生け花を飾ったりしています。廊下やリビングの壁を利用して、日々の出来事などの写真を貼り、思い出して頂けるよう工夫しています。共用の空間には季節の花や飾り物などを置いています。異食をする方がいますので置く配置などにも配慮しています。 台所は美味しい匂いに誘われて自由に出入りされる方がおり、時には味見をして頂いています。音や光を嫌がる方が居るので、充分配慮に努めています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	同じリビングに居ても思い思いの場所でゆっくり過ごされてます。利用者さん同士、良い距離を保ちながら、寛げるようソファの置き場所に工夫している。玄関ホールにもイスを設置し、他の方の視線が気になる入居者さんも安心して過ごして頂ける様、配慮している。 身体機能低下により座ることが難しくなった方は床にジュタンをひくことで同じ共同空間で寛がれています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の思いを大切にし、家具寝具等については馴染みの物を持ってきて頂いたり、家族の写真を飾るなど、自宅に近い環境作りを中心掛安心できるように配慮しています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	部屋の換気を行い、昼夜問わず、職員が利用者さんの状態に応じて温度・湿度の調節を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)認知症の人ではなく、一人の人としての喜び・その方の大事にしてきたもの、生きがいを感じていただけるよう、不安に寄り添い、その人の尊厳を守り、さりげないケアを目指しています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム こうえい愛宕館 ユニット名 こうえいひかり館	評価実施年月日	2010年2月26日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010年3月12日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を掲げている。カンファレンスや勉強会時も介護の基本として説明している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ユニット内に理念を掲示して、共有、実践のために取り組んでいる。また各自、携帯サイズの物を持ち、常に意識できるように取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時や家族会で理念を実際のケアと照らし合わせながら説明し、2ヶ月に1回、運営推進会議を開いて、事業所側と委員の間で意見交換している。またホームページも立ち上げており、閲覧できるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣の喫茶店の利用、また向かいの理容店とは飼われている犬を通して関わりを持っている。また散歩時に近所の方との会話を交わしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動の一つ、花壇の花植えや草取り、清掃などに参加している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	グループホーム協議会に加わっており、施設長が認知症の研修会、ヘルパー講習の講師をしている。運営推進会議の委員の民生委員との関わりで在宅の方の生活についてアドバイス等の協力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情はしっかり受け止め話し合い早期に対応している。上手く伝えられない利用者さんには日々の行動、言動から把握して対応に努めている。月に1回カンファレンスを行い、利用者さんの近況や不満などを公表し、意見交換をしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	日誌の公開や本人の近況などを来館された時に報告したり、月1回「館だより」を発行している。金銭管理は預かり帳を作り、出納簿、明細書等定期的に家族に送付・報告している。また、通院時と個々の健康状態を報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からケアについて意見、不満、苦情等を頂いた場合、家族と十分に話し合い、ミーティング、勉強会、カンファレンス等で職員に伝え話し合い、運営に反映している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	折々に意見、提案を聞く機会があり、業務改善等について職員と十分に話し合いケアに反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんの状況や外出など必要に応じ、出勤者で対応するが、事情によっては職員の待機の職員を確保するなど緊急の対応や大きな行事に対応できるよう調整もしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さんにダメージを与える移動や離職はなく、配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	月に1回勉強会を開き、介護や支援などについて学んでいる。研修の機会も多く与えられている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	グループホーム協議会、地域包括センターの研修会に参加している。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休暇、有給休暇等、希望を言いやすい環境で、希望を取り入れてくれている。法人主催やユニット内で食事会など開催して交流を深めている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	入居者さんの笑顔・言葉を見ることにより職員の関わりが見えてくる。管理者は職員の勤務状況は常に把握し、その状況を主任会議で報告してユニット内のケアの状況は運営者も確認している。職員が更に高度な認知症ケアを学び利用者さんと共に生活を送る為に職員の健康状態を把握したり、資格取得のため模擬テストの実施や研修会等への参加を積極的に勧めており、良いケアはスタッフの質が重要であることを全員が認識している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	自宅・施設を訪問し本人と面会して、コミュニケーションを取りきちんと聞くように努めています。また1日も早く慣れて頂けるよう寄り添い、傾聴に努めています。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	利用に至るまでの流れは、見学をしていただき、また自宅を訪問しアセスメントを行い、必要に応じてご家族と電話で連絡を取り、信頼関係を築けるよう努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況を見極めて、必要と思える支援を検討し対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人が安心できるように見学の機会を設け、職員や他の利用者さんと会話できるように工夫している。また居室には馴染みの物を用意して頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、本人のQOLを考え出きる事はして頂く中で様々な事を教えて頂いたり、また出来ない事を援助しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	電話連絡や面会時に本人の近況を伝え、ご家族と共に支えるよう努めています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人、ご家族のお話を聞く事が出来ることで、関係を理解してより良い関係を築けるように努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話のとりつき、家族への手紙の投函で関係が途切れない様に努めています。面会時には、居室でゆっくりくつろげるように心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事、お茶の時にはリビングに集まりすぐ出てこない方には声をかけています。またイベントには皆さん参加されています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、ご家族から利用者さんの事を気づかって頂き、お電話で温かい言葉を頂いています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中からさりげなく聞き出し把握に努めています。これまで馴染んで来られた環境に近づけた生活を大事にしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人、ご家族から聞き取りを行い把握しています。各利用者のアセスメントを行った結果、ある方は囲碁をしていたことが分かり、週1回、ボランティアの方と囲碁を楽しむことになりました。また演歌が好きな利用者さんには毎日職員と一緒に演歌を楽しむ関わりを行った結果、毎日楽しそうに歌っています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のケアで状態を確認しています。また申し送り、引き継ぎで情報を共有化し新たな気づきがあった時は報告しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を取り入れ情報収集、課題分析し、カンファレンスで話し合い、ご家族の方と連絡を取り意見を聞き作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月、カンファレンスで見直しています。病気の悪化、身体機能の低下等で状況の変化があれば、ご家族、関係者と話し合い新たな介護計画書を作成しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づき個々の記録に記入し、申し送り、引き継ぎで情報を共有しカンファレンスや介護計画の見直しに生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	個々の要望で買い物、通院、食事などを支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア組織を利用して囲碁をしていただくこと、消防の方より応急処置等の講習を受けています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問口腔ケア、訪問美容室等の活用を支援しています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところは事例はないが、そのような状況が発生した時は、地域包括センターと共に対応したいです。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	入所前の病院(かかりつけ医師)で受診出来るよう、ご家族とも協力し合い支援しています。		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	医師との関係を築きながら、利用者さんの認知症症状の変化には電話でも相談し、対応、支援しています。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	毎週月曜日に医療連携で看護師が派遣され、報告、相談をしながら日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	入院時、退院前には医師、ご本人、ご家族、ケアマネージャーが情報交換、相談を重ね、検討しています。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	最期までグループホームでと希望のご家族、主治医、看護師と話し合い職員も方針を共有し、同じケアを目指し日々、努力しています。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	事業所の「できること・できないこと」をご家族に説明し、医療スタッフ、ご家族の協力を得ながら、最後までその人らしく送れるように支援しています。変化については主治医、ご家族と話し合いしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ユニット内に場所の張り紙をして位置を示し、居室には馴染みのものを配置することにより、安心されるよう、ダメージを防ぐことに努めています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>あくまで一人の人として尊重し、敬語で接している。子ども扱いや赤ちゃん言葉を使用しない。記録等の個人情報も外部に漏らさない。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食事には嗜好を聞いてメニューに取り入れたり、朝には着る服を確認し自己決定することや化粧をすることも支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>加齢と共に身体が思うように動かさず立つことや、耳も聞こえにくくなり不安に思うことなどあるが、一人一人のペースを大切に、安心して過ごせる場を作るよう努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で着たい服を選択して頂いています。また行きつけの美容室に行ったり、入居前に行っていた美容師さんがホームに来てカットして頂いています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食器拭き、片付けを手伝って下さる利用者さん、野菜切りをして下さる利用者さん、また利用者さん全員の飲み物を入れて下さる利用者さん、それぞれ得意としている役割を職員と一緒にしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好きな飲み物は一人一人把握しており、またおやつは一緒に買いに行き選んで頂いています。行けない方の好みも把握しているので喜んで頂いています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を付け、個々のパターンを知り声かけ誘導しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日はほぼ決まっていますが、午前、午後の入浴には希望に添って対応し、拒否される利用者さんには気分の良いタイミングを見計らい入浴して頂いています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室の温度、湿度に注意し、褥瘡予防の為に体位交換、寒がりの利用者さんには温タオル、寝つきの悪い利用者さんには温かい飲み物を用意し、安心して休んで頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テーブル拭き、タオルたたみ、厨房の手伝い、牛乳パック切り等をして下さったり、外食のときはそれぞれ好きな物を頼み楽しんでいます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身の財布を持ち買い物に出かけ、支払いの時は側で見守っています。管理の難しい利用者さんは、ご家族の協力を得て少額のお金を持っています。利用者さんに合わせて支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>利用者さんの買い物、ゴミを捨てに行きながら近所を散歩し、花の季節になると花見に行っています。</p> <p>また皆でそろって外出したり、個別で出かけたりし、それぞれの好みの食事をして満足して帰ってきます。冬場は個別で希望に添えるように支援しています。</p>		<p>今まで全員で外出していましたが、個別に身体状態、認知症状が変化し、全員での外出は困難になったので、個別に交互に行っています。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>春から秋にかけ月1回は外出の機会を作り、公園に花見、食事に出かけたり楽しんでいます。個別では近くに住んでいる親戚の方に会いに行き喜んでいました。また外泊して帰って来る時は、ご家族と好物の蕎麦を食べ喜んでいました。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>利用者さんが電話したり、電話の取り次ぎもしています。利用者さんと職員と一緒に手紙を投函に行ったり、または投函を頼まれています。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>来館時にはゆっくりとお話ができるようにお茶、お菓子のおもてなしをし、帰る時は一緒に見送りをしています。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束防止の勉強会、研修にも行き理解しており、利用者さんの尊厳を守るケアに取り組んでいます。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室や玄関の鍵をかける事の弊害は理解しています。居室は鍵はかけませんが、玄関外には階段があることと、グループホームのある地域は交通量がとても激しく、交通事故が多発している場所であるため、身体症状、認知症状が進行している利用者が交通災害に巻き込まれることがないように、ケアの対応が不可能な時間帯のみ一時的にご家族の理解を得ながら施錠する事があります。必要条件がなくなりましたら解錠しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在確認を行い、居室で過ごされている方は声をかけ様子を伺い安全の確認を行っています。夜間は定期的に訪室して安否の確認をしています。また個々の状態によって訪室を多くし、転倒の危険のある利用者さんは安全に配慮しています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、包丁等は目のつかない所や鍵付きの保管場所に保管しています。はさみ等使用する時は職員と一緒にする事もあります。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会、研修で学び、事故・ヒヤリが起こった場合は報告書を書き分析し防止に取り組んでいます。転倒防止の為居室・リビング等の環境整備、服薬する利用者さんの名前の確認をしています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会で消防士による救急救命の講習を受けたり、看護師から対応の講習も受けています。救急時のマニュアルも作成しています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施しています。消火器、火災報知機の場所も把握しています。運営推進会議で意見を頂いています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクの可能性のある利用者さんの身体状態、認知症状をご家族に説明しています。利用者さんの状態を職員間で話し合い、居室の環境の整備、食事中の誤燕の見守り、夜間、トイレ時のふらつきの見守り、誘導等を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回のバイタルチェックと状態に合わせてチェックし、日々の観察、小さなサインにも注意しています。また病院と連絡を取り、早い対応をしています。情報は日勤者、夜勤者等と引き継ぎを行っています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局の処方箋や医療ケアノートを見て確認しています。また医療からも説明を受けています。利用者さんの服薬は必ず確認しています。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因や及ぼす影響は理解できています。排泄表を付け食欲が落ちていないか確認しています。看護師より整腸運動を教えて頂いたり、乳製品、乳酸菌飲料等を摂って頂き改善に努めています。また散歩や体操等で体を動かすようにしています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケア、洗浄剤を使い義歯の管理をしています。また訪問口腔ケアを受けている利用者さんがいます。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えながらメニューを作っています。水分、食事摂取表を付け個々の量を把握して、少ない時は補っています。また食べれなかった時は好きな物を用意しています。		若い利用者さんが入居しており、ご自身で好みの御飯の固さで炊いて頂いています。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがあり、対応について勉強会で行い、また外部研修を受けています。うがい、手洗いは習慣化されています。嘔吐物対応セットも用意しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>包丁・まな板等の塩素、熱湯消毒と、厨房の掃除、床の塩素消毒を毎日しています。賞味期限の確認、冷蔵庫の温度の確認を行っています。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>外玄関に花を飾ったり、ベンチを置きお茶を楽しんでいます。また狭いが畑と花畑もあり楽しむことができます。玄関先には手すり、冬場は階段に熱パネルを敷き安全面に配慮しています。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関に季節の生け花(入居者さんに生けてもらってます)と、季節の飾り付けも行っていきます。光の強い時はレースのカーテンで調整、工夫しています。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>少し離れている所にソファを置き一人になれるようにしていますが、皆さんが居る所が良いのか集まって来られます。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には馴染みの物が置いてあり、居心地の良い空間になっています。ご家族の来館時はゆっくりと過ごされています。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除、お茶の声かけ、ごみ集め等訪室して換気、温度の調節を行っています。利用者さんの状況に応じて換気扇を回させて頂いています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置、椅子・テーブルを伝って歩行できるようにしています。状態の変化が見られたら検討、工夫しています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>分からない利用者さんには見やすく大きな字でトイレ、居室には見やすい位置に本人の名前を書き貼っています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭にて夏、お茶の時間を楽しんで頂いています。畑の苗、花を買いに行き、植えて頂いています。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
一人ひとりの症状を理解し、安全に安心して過ごして頂けるように関わりを持ち、笑顔がたくさん見られるように支援に努めています。またご家族様と連絡を取り、利用者様の状況を報告し安心して頂きたく思います。